

CS^2標準ポート20080の変更方法手順

CS^2のポートの変更流れ

CS^2のポートの変更は以下の手順になります。

1. CS^2インスタンスの停止
2. 設定ファイルの変更
3. CS^2インスタンスの再開
4. クライントがアクセスするURLの指定ポートを変更を周知する

※これ以降の手順は、全てCCSID 5035 か 1399 環境で行う事を前提としおります。さらに、CS^2インストール時に特殊な事をせず、標準的なインストール作業を行った場合の状況について説明をしています。

1. CS^2 インスタンスの停止方法

停止方法は、HTTP管理画面を利用するか、コマンドを実行します。今回はコマンド例で行います。QSECOFR 相当のユーザーで、5250エミュレータを開始し、以下のコマンドを実行します。CS^2を標準作業で導入されている、ユーザー様は cs2 ユーザーを使う事が可能です。さらに標準インスタンス名も cs2 となります

- `ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(CS2)`

2. IHS(Apache)設定ファイルの変更

5250での編集方法は、以下の通りになります。SSH接続等で編集しても構いません。

```
EDTF STMF('/www/cs2/conf/httpd.conf')
```

以下の例では 20080 ポートを 55580 に変更しています。

```
~~~~中略~~~~  
####ushiday#### ポートの変更 //cs2set  
Listen *:20080  
↓  
Listen *:55580  
  
~~~~中略~~~~  
  
# バーチャルホスト //cs2set  
<VirtualHost *:20080>  
    Include /www/cs2/conf/sites.d/mysite.conf  
</VirtualHost>  
  
↓  
  
# バーチャルホスト //cs2set  
<VirtualHost *:55580>  
    Include /www/cs2/conf/sites.d/mysite.conf  
</VirtualHost>
```

3. CS^2 インスタンスの再開方法

- STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(CS2)

4. クライントがアクセスするURLの指定ポートを変更を周知する

ポート変更は完了しましたので、各クライアントが、アクセスしているURLを変更する旨を伝える必要があります。

- 旧URLの例：`http://hostname:20080/foo/bar`
- 新URLの例：`http://hostname:55580/foo/bar`

以上で完了です。